学力向上のための重点プラン

新宿区立落合第四小学校

【HP公開用様式・期末評価】

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
【第１学年】 ○大きな行事ごとの日記や、植物の観察記録を書く活動を後期も継続したほか、授業ごとの振り返りをノートに書くよう習慣付けたところ、文章を書く力がさらに向上し、字を丁寧に書こうとする意欲もついてきた。 ▽デジタルドリルの活用を推奨したが、使用頻度は個人ごとに差が出てしまった。	【第１学年】 ●文章を書く機会を引き続き確保し、これまでより複雑な事柄も文章で表現できるようにする。 ▼デジタルドリルの継続的な活用を続けるが、紙のプリントも併用して、漢字の書き取りや計算問題に鉛筆で解答する力も維持できるようにする。デジタルドリルの活用頻度は学年で共通して取り組んでいく。
【第２学年】 ○音読をする経験を増やしたことで、平仮名、片仮名、漢字の混ざった文章を正確に読めるようになった。 ○算数の文章問題では毎回大切な言葉を見付ける活動を入れたことで、文章を正確に読み取ろうとするようになった。 ▽漢字の定着はまだ十分ではなく、普段から生活の中で使おうとする意識も弱い。 ▽文章問題を正確に読み取れるようになったが、正確に立式することが難しい様子が見られる。	【第２学年】 ●文章を音読する経験は今度も継続していく。 ●算数の文章問題では、線を引くなどして、大切な言葉を読み落とさないようにする。 ▼新出漢字を定着させるために、モジュールの時間を活用し少ない数を繰り返し練習するようにする。 ▼抽象的な問題でも確実に立式できるように、線を引いた事柄をもとに、言葉で説明する、図にする、絵に描くなど多様な方法で式につなげられるよう指導する。
【第３学年】 ○日常的に国語辞典を引くようしたことで語彙も増え、少しずつ使いこなせるようになっている。日記程度はすぐに書けるようになり、作文もまとまった 300 文字程度を全員が書けるようになっている。年度初めより相手の話を聞き取り、質問ができるようになった。 ○具体的操作を用いて数を捉えることは、社会科のグラフの読み取りや理科の重さの実験などで生かしている様子が見られる。コンパスを使っての作図は上達している。 ▽言語の応用的な活用が苦手である。ことわざの意味は理解しても文に用いることができなかったり、文の構成が理解できていないために主語と述語がねじれた文を書いたりするところも見られる。相手の話を聞いて理解する力にも差がある。 ▽数の概念は数値が大きくなると混乱するところがまだ見られる。また、分からない数を□を用いて式に表したり、線分図を描いて題意を捉え	【第３学年】 ●国語辞典で調べる言葉を自分で選ぶなど、さらに自発的に意味を調べていく姿勢が育つように言葉掛けを多くする。自分の考えを伝える意欲が持続するように、スピーチやプレゼン的な自分の意図を自分でまとめて伝える機会を増やす。 ●算数的活動を増やし、具体物の操作をして数の概念を習得できるよう道具や場を用意する。描画も繰り返しの演習を続ける。 ▼意味を理解した熟語や言葉を用いる練習が必要である。短作文など、言語の活用問題を宿題にするなど日常的に取り組めるようにする。思いつくままに話したり書いたりするのでなく、付箋にメモしたり、数人に話してから全体の前で話すなど内容を自分で精選するように指導する。相手に伝わりやすい表し方ができるようにすることで、相手との対話を促し、その上で聞き手としての力を育てるようにする。 ▼単位変換表の掲示や資料としての活用法を算数担当とも相談して学年で統一して用いられるよ

たりすることがまだ難しい。	うにする。 ▼問題文の数値に線を引いたり、問われていることからどこが□になるか書き込んだりして、文意を整理してから解くように指導する。
【第４学年】 ○振り返りと日記を継続したので、文章を書くことには慣れてきた。 ○１年生の漢字から止め、はね、はらいに注意して復習させたり、月に１度、詩の視写を行ったりしたので、字の形が整い、丁寧な書字をしようという意欲が高まった。 ▽振り返りに書く内容がパターン化されつつある。 ▽算数では単元が終わった内容を復習する時間が十分に確保できなかった。	【第４学年】 ●毎時間の振り返りと日記を今後も続けていく。 ●今後も詩の視写など、丁寧に字を書く時間を定期的に設けていく。 ▼振り返りがパターン化しないように、語彙力を高めたり、体験活動を充実させたりしていく。 ▼家庭学習と連携してドリルパークも活用し、苦手な内容を復習する時間を作っていく。 ▼算数の応用的な問題に苦手意識があり、最初からあきらめて取り組まない様子があるので、既習事項を生かして取り組むことを日頃の授業から意識させて問題に取り組むよう声掛けをする。
【第５学年】 ○算数では紙のドリルを繰り返し学習したことにより基礎が定着した。その上でデジタルドリルを併用したことにより、確実なものとなった。 ○教科を問わず、定規等を使わせることにより作図に対する苦手意識が少なくなった。 ○４月から毎日短い振り返りを書く活動をした。漢字を使い、文章を考える活動を続けたことにより新宿区学力定着度調査の結果では国語において 10 ポイント以上伸びが見られた。 ▽新宿区学力定着度調査の結果から算数を苦手とする児童が半数いた。これらの児童に対しての支援する時間を確保することができなかった。	【第５学年】 ●来年度もデジタルドリルを中心に紙のドリルも併用しながら、基礎学力の定着を図っていく。 ●短くても毎日の振り返りを書き、書くことへの抵抗を少なくしていく。 ▼算数も国語も苦手と感じる児童に対してはドリルパークの下学年の問題に取り組むなどスモールステップの反復学習を個に応じて十分に支援をしていく。
【第６学年】 ○どの教科でも友達の考えを受容し、それを生かせるようにグループでの学習を多く取り入れたことによって、児童の考えを広げたり、深めたりすることができた。 ○グループでの話し合いや多くの児童が意識的に行うようになった。スピーチや発表などクラスの友達の前で話したり、全校朝会のあいさつをしたりする経験から、話すことへの抵抗が少なくなった。 ▽振り返りの時間を十分に確保できないことがあった。	【第６学年】 ●引き続き、授業内でのグループ学習の機会を適切に設けるようにして、児童が主体的に学び、考えを広げ、深められるようにしていく。 ▼振り返りの時間をできる限り確保し、児童自身が得意なことや新たな気付き等を把握することで次の学びに生かせるようにしていく。